

5. 技術者の誇り

ホンダと言えば、今日では自動車メーカーとして世界的に有名だが、ホンダはもともと自転車に付けるエンジンを販売する会社として出発した。そのエンジンを開発したのは、ホンダの創業者でもある本田宗一郎だ。本田と車の関わりは、東京にあった自動車修理工場から始まる。本田は 1922 年からこの修理工場に 6 年間勤務し、自動車修理や整備の技術を習得した。その後、故郷の静岡に戻り、自動車修理工場を開き修理工場を大きくした。しかしながら、さらなる高度な技術の必要性を感じ、1937 年、浜松高等工業高校(現静岡大学工学部)の聴講生として、3 年間金属工学の研究に努めた。その結果、1947 年に自転車につける補助エンジンの開発に成功し、1948 年に現在のホンダの前身となる会社を設立した。その後、ホンダはオートバイ、自動車、小型ジェット機、そして二足歩行のロボットアシモまで、数々の製品を製造する大企業になった。

本田はホンダという大企業の創業者で経営者であるが、経営に関しては後のホンダ副社長藤沢武夫に頼る部分が多く、本田はというと、自分自身は技術者だと考えていたようだ。そして、技術者であることに誇りを持っていたようで、**こんなエピソード ***が残っている。1981 年、長年の本田の活躍に対して政府から勲章が贈られることが決まり、本田は天皇からその勲章をもらう式に出席することになった。本田は技術者の正装は白い作業着であるから、燕尾服ではなくその作業着を着ていくと言い、周囲の者を慌てさせた。結局は周りの人々の説得もあり、当日はもちろん燕尾服で式に出席したそうだが、本田の考え方がよく分かるエピソードである。

本田と藤沢は日本の会社の創業者にしては珍しく会社は個人の持ち物でないという考えを持っており、本田も藤沢も自分の子供をホンダに入社させなかった。そして現在でも**この考え方 ****は守られており、ホンダは実力本位の採用を行っている。また、会社の社長は技術者でなければいけないという藤沢の考え方を尊重し、本田が辞めた後も、社長には技術者が選ばれている。ホンダは色々な意味で日本でも珍しいタイプの会社かもしれない。

単語リスト：

修理（しゅうり） Sửa chữa

整備（せいび） Bảo dưỡng, bảo trì

習得（しゅうとく） Lĩnh hội, tiếp thu được

故郷（こきょう） Quê hương

金属（きんぞく） Kim loại

補助（ほじょ） Hỗ trợ, bổ trợ

前身（ぜんしん） Tiền thân, tiền nhiệm

大企業（だいきぎょう） Công ty lớn, Doanh nghiệp lớn

創業（そうぎょう） Thành lập

誇り（ほこり） Niềm tự hào

勲章（くんしょう） Huân chương

天皇（てんのう） Thiên hoàng

正装（せいそう） Trang phục truyền thống, lịch sự

燕尾服（えんびふく） Áo vest đuôi tôm